



リウマチ研究とリウマチ臨床の総まとめ

リウマチ

川上保雄 森崎直木 大高裕一 編集

本書は現在におけるリウマチ研究とリウマチの臨床の総まとめともいふべきものである。

従来、慢性関節リウマチあるいはリウマチ熱に関する書籍もいくつか発行されているが、これらをすべて包含して詳細に述べたものはない。しかも本書においてはリウマチの基礎についても、また臨床についても現在のわが国における最高のレベルで述べてある。

本書においてはまずリウマチの歴史、リウマチの分類についての記述がなされている。

つぎに‘リウマチ熱の基礎と臨床’の章がこれにつづくが、これも病因、病理、実験病理、疫学、血清反応、症状、診断、治療、予後、予防の項に分けられ、各項目ごとに、十分な頁数が与えられ、それぞれの

専門家が執筆にあたっている。そのために各項目の記載はかなり詳しく、かつレベルも高いが、一方臨床の項などはきわめて具体的な記載がなされており、実際のリウマチ診療を行なう者にとっても多くの有用な示唆が与えられるように述べられている。この点、本書の大きな特徴である。

つぎに‘慢性関節リウマチの基礎と臨床’の章がつづくが、これも‘関節の構造と代謝’、病因、病理形態、実験病理、疫学、血清反応、症状、診断、治療、経過と予後、リハビリテーションの各項目に分かれ、それぞれの項について専門家が詳述している。

本書の他の大きな特徴は、さらに‘リウマチ熱と慢性関節リウマチ’‘いわゆる非関節型リウマチ’‘リウ

マチの周辺疾患’‘リウマチとムコ多糖’‘リウマチと膠原病概念’‘リウマチと自己免疫’の章が設けられ、それぞれ力のこもった論文が並んでいることである。このような各章は、現在非常に問題とされている重要なテーマであり、本最において見のがすことのできない重要な部分を占めている。

以上のべてきたように、本書にリウマチ研究者のみならず、日常リウマチを取り扱う臨床家にとっても必読の書といえ、現在リウマチ学のトップレベルの書である。本書を読めばリウマチの全貌を理解することができるものである。この意味であえて江湖に推せんする次第である。

(B・5, 400 ページ, 9000 円, 医学書院)

(日大助教授 大国真彦)